2026_1020「オーロラの下を走る謎の列車」日々の理科 4454 号

お茶の水女子大学　サイエンス＆エデュケーション研究所　田中　千尋

・

スウェーデン北部、北極圏に近い小さな村ポルユス。その駅を真夜中に通過する「謎の列車」を、オーロラ自動撮影カメラがとらえました。緑色のオーロラが夜空を染める中、イェリヴァーレ方面からヨックモック方面へ向かう列車が、まばゆい光を放ちながら通り過ぎていきます。長時間露光によって列車の姿は光の帯となり、静まり返った森と星空の下に、不思議な光景を描き出しました。

実は、この駅を通る旅客列車は、毎年６月から８月上旬までの夏季限定運行です。スウェーデンの夏は日が長く、北極圏では真夜中でも空が明るい白夜の季節です。しかも旅客列車は明るい時間帯に駅に停車するため、オーロラと一緒に撮影することはできません。では、旅客列車の運行が終わった晩秋の、それも真夜中に通過したこの列車の正体は、いったい何なのでしょうか。

考えられるのは、貨物列車か、線路や設備の点検・保守を行うメンテナンス車両です。しかし、この写真だけでは車両の種類を特定することはできません。列車の正体は謎のままですが、確かなことが一つあります。それは、遠く離れた日本から操作しているオーロラ自動撮影カメラが、誰もいない深夜の駅で「オーロラと列車」という珍しい一瞬を見逃さなかったことです。偶然が生んだ、北極圏の夜の小さなドラマでした。

（2026 年 10 月中旬／スウェーデン・ヨックモック郡・ポルユス駅／東京から遠隔撮影）

